

瀬田川プランクトン調査結果速報

～第45報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
環境監視部門 生物圏係
令和4年2月7日

1.最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



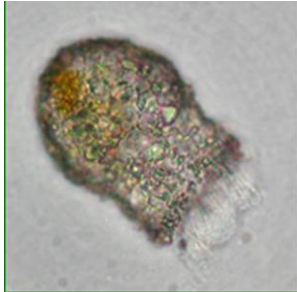
Cyclotella glomerata

(ヒメマルケイソウ)

珪藻綱

細胞は、横から見ると長方形に見えるが、真上から見ると円形に見える。その直径は4～10μmと小さい。多数が鎖状に結合して群体をなす。

動物プランクトン第1優占種



Codonella cratera

(スナカラムシ)

繊毛虫類

壺のような固い殻を持ち、その殻は砂粒を含む。色は黒色で、前が開いていて、その後ろにくびれがある。殻の中に無色透明の繊毛虫が入っている。

2.計数された異臭味原因プランクトン



Phormidium tenue

コメント

植物プランクトンは珪藻に属するヒメマルケイソウ(*Cyclotella glomerata*)が優占種となった。体積で見ると、同じく珪藻に属するシネドラアクス(*Synedra acus*)が優占種となった。網別の体積では、珪藻綱が総体積の約68%、褐色鞭毛藻が約22%を占めた。動物プランクトンは減少し、繊毛虫類に属するスナカラムシ(*Codonella cratera*)が200個体/Lで優占種となった。ピコ植物プランクトンは今週も少なく2,900細胞/mLとなり、輝橙色のものが29%、深赤色のものが71%であった。かび臭の原因となるフォルミディウム テヌエ(*Phormidium tenue*、物質:2-MIB)が20群体/mL計数された。

3.計数された主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		(個体/L)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	200

第 2 優 占 種		(個体/L)
ワムシ類	<i>Synchaeta oblonga</i>	60

* 個体数は、プランクトンネットNXXX25(目合い41μm)で1000倍濃縮したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
環境監視部門 生物圏係

(2) 植物プランクトン

令和4年2月7日

第45報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(藍) <i>Phormidium tenue</i> *★	40	◎	
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	80		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	20		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	560		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	260		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	40	○	◎
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	280		
(珪) <i>Asterionella gracillima</i>	440		
(珪) <i>Synedra acus</i>	100		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	200		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20	○	○
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	140		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	180		
(緑) <i>Ankistrodesmus falcatus</i> var. <i>mirabile</i>	40		
(緑) <i>Staurostrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	2		
(緑) <i>Cosmocladium constrictum</i>	2		
(他) <i>Merotrichia capitata</i>	1		
(藍) 藍藻綱	40	1.7	0.8
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	100	4.2	3.7
(珪) 珪藻綱	1900	79.0	67.5
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	320	13.3	21.7
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	44	1.8	5.6
(他) その他のプランクトン	1	0.0	0.7
総 細 胞 数	2405	総体積 (μm^3)	1.24E+06
種 類 数	17		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/mL)
ただし*印の種は群体数(群体/mL)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) ★: 異臭味原因プランクトン
- 注4) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	細胞数/mL
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	2,900

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 μm (1 μm は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。G励起(緑色光照射)で輝橙色に輝く種類と深赤色に見える種類があります。